

# 様式b

## 不祥事防止のための 心理と行動のワークシート

### 体罰

[様式b]相手を望ましい方向へ  
変化させることを目的  
とする行為編

このワークシートは、平成 30 年度  
以降、実際に起きた埼玉県  
の事例から「体罰のうち行為の  
目的が相手を望ましい方向へ  
変化させるもの」に該当する  
複数の事例を抽出し、共通する  
出来事や事故者の心理状態など  
\*1 を分析、認知行動療法の考  
え方\*2 を取り入れて作成した  
ものです。不祥事を起こすに  
至るまでには、行動に先立つ  
思考過程のパターンがありま  
す。ワークシートを使って自  
分をモニタリングしてみま  
しょう。

\*1 掲載に当たっては実際の事例を参考  
に、改変を加えている。

\*2 問題のある行動につながる考え方の  
癖、いわゆる認知の歪みを認識して、適  
切な考え方・行動へ向かわせる手法

出来事		不祥事へ向かわせる 心の声	不祥事を思いとどませる 心の声
日常の段階から、不祥事の発生、発覚に至るまでの経過を自分事としてたどってみましょう。		出来事に対応する心理としてあなたの思いに近い方の□にチェックを入れ、更に思い浮かべることがあれば( )の中に記入しましょう。	
日常	普段から授業中に私語が多いクラス。授業も遅れがちで、保護者からの苦情もある。	<input type="checkbox"/> このくらいのことは自分の力で解決しなければ。 ( )	<input type="checkbox"/> 自分には何が足りないだろう。一度誰かに相談してみよう。 ( )
同僚からの批判	隣のクラスの担任から、もっと静かにしてほしいとクレーム。	<input type="checkbox"/> 誰かに相談したら、かえって色々言われてしまうかもしれない。 ( )	<input type="checkbox"/> いい機会だから、少し恥ずかしいけれどアドバイスをもらおう。 ( )
個別の指導	私語の中心になっている3人の児童に、おしゃべりをやめるように注意するが、すぐにまた私語が始まる。	<input type="checkbox"/> あの3人さえ静かにしてくればクラスも正常化するのに。 ( )	<input type="checkbox"/> もしかしたら3人も何か困りごとを抱えているのかもしれない。 ( )
印象付け	少し声を荒げて指導を行った。	<input type="checkbox"/> 優しく言ってもだめなら、あえて厳しさを示せることも必要だ。 ( )	<input type="checkbox"/> 毅然とした指導だっただろうか。威圧的な指導ではなかったか。 ( )
相手の態度の確認	一瞬クラスが静かになったが、授業を進めるとまた騒がしくなり始める。	<input type="checkbox"/> 思いがまるで伝わらない。言うとおりにならないことに苛立つ。 ( )	<input type="checkbox"/> 冷静に！まずは落ち着いて次のことを考えよう。 ( )
身体侵害	3人の児童の席に行き、「静かにできないなら廊下に出すぞ。」と言って、頬を両手でぎゅっと挟んだ。	<input type="checkbox"/> 何度言ってもだめなら、これくらいしないと分からないだろう。 ( )	<input type="checkbox"/> 怒りのピークは6秒。6秒待とう。手を出したら子供との関係が悪化するだけ。 ( )
身体侵害・行為の強制	その後、また私語が始まった。今度は3人の児童の腕を強くつかみ、「静かにできるまで立ってなさい。」と言って、廊下に出した。	<input type="checkbox"/> 我慢の限界。自分も昔は廊下で立たされた。やるしかない。 ( )	<input type="checkbox"/> もう一人で抱え込むのは限界だ。管理職や同僚に助けを求めよう。 ( )
行為の強制	廊下でも3人がじゃれ合っている様子だった。トイレに行くことも認めず、1時間、廊下で正座をさせた。	<input type="checkbox"/> ほかにできることが思いつかない。分からせるためには仕方ない。 ( )	<input type="checkbox"/> 指導を強めてもだめだ。これ以上は危険だ。アプローチを変えよう。 ( )
目的の達成	3人の児童は反省と今後の行動を改める言葉を口にした。	<input type="checkbox"/> やっと分かってもらった。必要な指導であった。 ( )	<input type="checkbox"/> 真の意味の反省ではなく、力関係でねじ伏せただけかもしれない。 ( )
行為の正当化	他の教職員から、正座は問題があるのではと指摘された。少しやり過ぎたかもしれないが、児童も理解してくれていますと答えた。	<input type="checkbox"/> トラウマになるほどでもないし、児童をフォローすれば大事にはならないだろう。 ( )	<input type="checkbox"/> もしかしたらやり過ぎだったかもしれない。後で管理職に相談しよう。 ( )
発覚	他の教職員が管理職に報告して発覚。事情聴取を受けた。(学校・教育委員会)懲戒処分を受けることとなった。	なんとかして静かにさせなければと追い込まれ、短絡的に行動してしまった。結果的に身体的な痛みだけでなく、心にも傷を負わせてしまった。児童や保護者との関係を更に悪化させてしまった。	

## セルフトーク 自分自身のモニタリングをしてみましょう。

「不祥事へ向かわせる心の声」が強いところや、「不祥事を思いとどませる心の声」が弱いところほどの段階でしたか。

(記入しましょう)

あなたが、不祥事に向かう段階を確実に防ぎ止められると思うのはどの段階ですか。それは何故ですか。

(記入しましょう)

あなたにも事故者の特性と共通するものがないか考えてみましょう。

- ◆参考◆ 事例分析から見えた事故者の特性の共通点(ここに掲げた特性に当てはまる者全てが問題のある行為を行うわけではありません。多くの教職員に当てはまるものもあります。) 担任なら他者の助けを借りずに自分一人の力で児童生徒をより良い方向に導かなければならないと思っている／児童生徒への指導の専門性に自信がない／思いどおりにいかないと冷静さを失うことがある／決まりやルールは必ず守らせなければならないと感じる

(記入しましょう)

あなたが今、大切にしたい、失いたくないと思っていることは何ですか。(あなたが「大切にしたいこと(人・物など)」は、不祥事を思いとどませるためのブレーキになります。もし、あなたが不祥事を起こしてしまったら、「大切にしたいこと」を守ることができなくなってしまうかもしれません。)

(記入しましょう)

## 防止策 不祥事を食い止めるためにできることを考えましょう。

あなたの「不祥事へ向かわせる心の声」を「不祥事を思いとどませる心の声」に切り替える方策は何ですか。

(記入しましょう) 考え方 :

(記入しましょう) 具体的な行動:

あなたが同僚だった場合にできることは何ですか。

(記入しましょう)

あなたの職場には、教職員同士の関心が薄かったり、不適切な指導や場面を見ても、流してしまうような雰囲気はありませんか。

なし・あり(ある場合には具体的にどんな場面でそう感じるのか記入しましょう)

このような事故を起こした場合に問われる①～④の責任について、それぞれ具体的に考えましょう。

(記入しましょう)①行政上の責任:                      ②刑事上の責任:                      ③民事上の責任:                      ④社会的な責任:

同じような事故を、あなたの職場で絶対に起こさない・起こさせないようにするために、管理職を含めたみんなで取り組めることを考えましょう。

(記入しましょう)